

卒業生の活躍の様子からさぐる未来

EXHIBITION 01

女性伝統工芸士展に
卒業生の相澤久美子さん(5期)
古賀陽子さん(2期)が参加

と き:2018年6月13日(水)~18日(月)
と ころ:アクロス福岡 福岡市天神1丁目1-1

全国の伝統工芸品の中でも、女性伝統工芸士にスポットをあてた展覧会。12都道府県から17工芸作品、22人の作品が一堂に会しアクロス福岡で、2018年6月13日~6月18日まで開催されます。博多織DCの卒業生で活躍する相澤久美子さん(5期)、古賀陽子さん(2期)も参加し、作品の展示と販売を行います。



EXHIBITION 02

糸から織物へ
その変遷をたどれるまゆ姫の夢の活動に触れる機会を

と き:2018年9月13日(木)~18日(火)
と ころ:はかた伝統工芸館 福岡市博多区上川端町6-1

「まゆ姫の夢」は、絹糸の原料となる繭をつくる蚕を育てるところからはじまるプロジェクトです。自から育てた蚕の繭から糸を作り、織物をつくるという一貫した製作を行っています。手掛けるのは、3期生の荒木さんと、大内田さんのお二人。そのプロジェクトの成り立ちや実際に完成した作品を揃えた展示会を2018年9月13日から18日まではかた伝統工芸館で、開催します。「糸物語」と題して、作品の展示だけでなく、ワークショップなども企画されています。

ワークショップスケジュール:

9月15日(土)糸繰り
9月16日(日)真綿作り
9月16日(月)生糸真綿で
敬老の日にちなんだ小物作り
各日14:00~15:30

詳細のお問合せ先:

荒木希代
kiyolabof@gmail.com



SHOP INFO

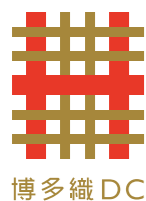
「織」をテーマにした七夕能公演で
卒業生が実演展示販売

平成30年7月8日に開催の七夕能では、博多織777周年を記念して、「呉服」という織りに関する演目が披露されます。それに併せた特別企画として二つの伝統が織り成す世界ということで、博多織DCの卒業生たちによる展示や実演、そして販売会が開催されます。

と き:2018年7月8日(日)
12:30~16:30
と ころ:大濠公園能楽堂

〈参加卒業生〉

岡部由紀子(2期)、荒木希代(3期)、
大内田明子(3期)、新海佳織(4期)、
盛かおる(4期)、相澤久美子(5期)、
森本美生(5期)、近藤啓子(6期)



本誌の内容に関してのご意見、ご感想等はこちらまで!

情報誌 おりおり便 発行日/2018年00月00日
編集・発行/博特定非営利活動法人 博多織DC
〒812-0014 福岡市博多区比恵町20番19号
TEL.092-472-5102 FAX.092-472-5103
http://www.hakataoridc.or.jp

博多織の未来を見守る賛助会員募集中 詳しくはホームページをご覧ください。

編集後記

博多織デベロップメントカレッジから「博多織DC」へ。学校の基本コンセプトは不変ですが、博多織DCではモノづくりの「技」に加え、社会課題解決、市場価値につなげていく「思考」を軸としたプログラムを新たな特徴として、卒業生を育て、蓄積されてきた文化、この新たな発想や要素と結びつけ、時代が求める価値としていかに再定義、再編集、再発信していくか。これまでの「枠」を超えていこうという様々な人材を、この小さな学校・博多

原稿未
216字

・WANTED・

博多織DC 13期生募集中

詳しくは、メール又はお電話でお問い合わせください。
TEL:092-472-5102 FAX:092-472-5103
Email:hakataori@forest.ocn.ne.jp (担当:野口)



コトコト織ってコツコツ学んでドンドン伝える

おりおり便

vol.16
2018 Summer
博多織DC

10期生の
創作活動の集大成。
アイデア満載の卒展を
開催しました。

2018年3月15~18日に10期生卒業制作展示会を開催しました。博多織デベロップメントカレッジ創立から10年を経て、授業プログラムを刷新した年に入学した10期生。博多織の実技を中心とした体制から、「創造と自立」をコンセプトにしたビジネス系授業と実技の授業という2本柱のプログラムで学び、その集大成として卒展制作にのぞみました。

自分と改めて向き合ってテーマを決めコンセプトを練り、作品のデザインや技法を確認し、展示方法のアイデアを出し、制作に向き合った半年間。また今回の卒展制作に関しては、学外の様々なジャンルの先生方にも個別に相談させていただきました。卒業後にこれらの経験が、10期生の今後の創作活動にいい刺激と影響を与えてくれることを願っています。なお3名は研究生として、さらに1年間学校に通い、技術の研鑽に努めます。10期生の今後をあたたく見守り、応援してまいりますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



卒業制作展を終えて

太田永遠 / 座学の授業を活かして帯や着物を展示する初めての試み。準備がとても大変でしたがお客様の反応を目の前で見ることができたのは何より勉強になりました。大学の先生方に協力いただき博多織の上に刷毛で染色をしました。細かい織り物の上に大胆に刷毛で染色したのはとても楽しかったです。卒業後も博多織の会社で意匠制作します。

松田明代 / 卒展では「MONO着付け」と題し人ではなく色々なモノに博多織を着せることに挑戦しました。座学の授業の中で博多織の新しい活用法について考える機会が何度もあったので2年間の集大成、とまでは言いませんが、自分の中でぶれる事なく1本筋を通せたような気がしています。

橋口恵美 / 博多織の帯や着物だけでなく、お菓子入れや万華鏡など様々な作品が並んだ今回の展示。空間も帯を空中で垂らしたり、空間の中にミラーボールを入れてキラキラにさせたりといい意味で博多織らしくなく、新しい展示になりました。これからは研究科に進み、実技等をさらに深く学んでいきたいと思えます。

毛利美玲 / 展示ブースのテーマは、「全力無邪気」。大人も子供も着物・織物に触れ、わくわく楽しめるような工夫も考えて作品制作と展示空間デザインに力を入れました。研究生として知りたいことや習得したい技術をさらに見つめて取り組みます。

多彩な個性の12期生集合！ 情熱一杯にスタートしました！

2018年度、博多織DCには12期生7名の学生が入学する運びとなりました。高校を卒業してすぐの若手から、社会人生活を経てきた40代半ばまでの幅広い年齢層のバラエティあふれるメンバーです。みな伝統工芸に関心が高く、創作することがとても好きで、「博多織の技術を修得したい」、「仕事として携わっていききたい」という強い気持ちを持っています。

これから2年間、実技と染織に関連する授業、ビジネス系のユニットプログラム授業の2本柱で学んでいきます。入学を決めた時の気持ち、博多織を知り始めてワクワクした気持ちを忘れずに、学べることをできるだけ吸収して、自分がどのように博多織に関わっていくのかを見極め、その道を邁進していただきたいと思えます。



12期生自己紹介

入学したての7名は、早速4月2～5日にかけて授業概要や卒業生の話などのオリエンテーションを受けました。また、博多織の企業見学などをすませ、4月6日からは実技の授業がスタートしています。

特技をいかして学べる場

井上七緒

私が好きなことは手芸です。細かい作業を長時間することが得意で、そんな職業を探していました。中学生のときテレビで「博多織の専門学校がある」ことを知り、インターネットで調べたことがきっかけです。博多織の技術を身につけ、伝統を受け継ぎたいです。

日本の伝統に携わりたい

井上結香子

幼い頃からものづくりに興味があり、「日本の伝統工芸に携わりたい、もっと元気にしたい」という思いから入学を決意しました。博多織の伝統技術を正しく習得し、自分なりのスタイルで伝統を守っていけるような人間になりたいと思っています。

毎日が驚きと発見の連続

石田実夢

伝統工芸が好きで、織物の勉強がしたいと思い入学を決意しました。毎日が驚きと発見の連続で、失敗しながらも少しずつ進んでいるところです。まだまだ未熟でそっかしくご迷惑をおかけすることもあると思いますが、頑張りますのでよろしくお願いいたします。

立派な職人として活きたい

小畑恵巳

夢は65歳までに博多織と組紐の伝統工芸士になることです。何故65歳かと言うと母が亡くなって、丁度30年なので、立派に職人として生きています。と良い報告がしたいのです。覚えが悪くて、先生方にはご迷惑お掛けしますが、精進して行きますので宜しくお願い申し上げます。

まずは挑戦してみたい！

加茂万里江

興味のある事、やってみたいと思う事には挑戦してみよう！と思い入学しました。実際に織り始めて、とても難しいですがとても楽しいです。わからない事ばかりでご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが宜しくお願い致します。

目指すのは日々の成長

城戸那菜子

元々物作りが好きで生まれ育った福岡の伝統に携われる仕事に魅力を感じ、母から紹介されたこの学校に入学することを決意しました。険しい道のりではあると思いますが、自分なりに努力を積み重ね、日々成長していきたいと思っています。

看護師の道から転身

西田由紀

大学病院の看護師として20年。博多織のペンケースを記念品でいただいたことをきっかけに博多織に興味を持ち、新たな挑戦をしようと入学しました。博多織を通して、福岡を笑顔あふれる元気な街にしたいと思っています。

12期生(2018年度・2019年度) ユニットプログラム 講師一覧



藤代裕之(自己探求)

ジャーナリスト。法政大学准教授。日本ジャーナリスト教育センター(JCEJ)代表運営委員



大竹恵理子(和装)

着物スタイリスト、着付師



白水高広(文化デザイン)

(株)うなぎの寝床代表



梅澤陽明(ものづくり)

一般社団法人デジタルファブリケーション協会代表理事。ファブラボ神田錦町チーフディレクター



高畑正幸(マテリアル)

テレビチャンピオン「文具王」。サンスター文具(株)とプロ契約を結ぶ



佐宗邦威(ビジネスデザイン)

(株)ピオトップ代表



的野裕子(国際表現)

ライター、翻訳家



遠藤幹子(空間デザイン)

建築家。一般社団法人マザー・アーキテクチャ代表理事



田村大(プロジェクトデザイン)

(株)リ・パブリック共同代表



先輩からのメッセージ

大淵和憲(8期生)

12期生の皆さん、入学おめでとございます。2年間、博多織をはじめとするあらゆる染織について楽しく学んで下さい。染織の世界は余りに広大・深遠で、何年学んでも新たな発見があると思います。製織・染色・仕掛・意匠…どの分野に力を入れて取り組むことができたのかを1年毎にきちんと確認することが、自分を見失わないためにも重要だと思います。カレッジには様々な分野に長けた先生・卒業生がいます。一緒に頑張りましょう。



業界トピック

01 博多織の歴史を感じる 「777 — 博多織伝来777年」

2018年は博多織が伝来して777年になります、それを記念して博多織工業組合では特別委員会を設置し、博多織を盛り上げる一年にしようとしています。

具体的には、レセプションパーティー、モニター販売会、美しいキモノ別冊発行など例年にに加えて、ユーザーや一般の方と接触する機会を増やしていきます。さらに、一番の山場は11月に行われる福岡県主催の「伝統的工芸品全国大会」への参加です。日本中から伝統工芸に携わる方が集まるこの場で、博多織として最大限のアピールをする予定です。



02 愛好家が集って大にぎわい 「着物カーニバルin博多」

2018年4月中旬に行われた着物カーニバルin博多では、たくさんの博多の着物愛好者が来場され賑わいました。組合員企業も出展され、HDC卒業生もボランティアとしてお手伝いしました。主催のあづまや呉服店様からはカーニバルのオークションの収益金の一部をHDCに寄付頂き、着物愛好者の方のHDCに寄せる期待を感じることができました。



03 日本の工芸が一堂に集う！ 「KOUGEI-EXPO 2018」 福岡で開催決定

2018年11月1日～4日、伝統的工芸品月間国民会議全国大会(KOUGEI-EXPO)が福岡県(会場、マリンメッセ福岡等)で開催されます。博多織工業組合は県内7つの伝統工芸品の一つとして参加しますが、博多織DCもその傘下で博多織の次代の担い手育成の状況や、これまでの業界の常識を越える取り組みについて発表、展示を行っていく予定です。

